

## ① はじめに(3分間の練習)

まずは3分間の練習です。「練習を始めて下さい。」とアナウンスし、ストップウォッチで3分間を計ります。そして、「残り2分です」「残り1分です」「残り30秒です」「タイムです」と、順にアナウンスします。

では、選手が練習している間に、②の注意事項を読んでおいてください。

## ② SCUをする上での注意事項

### ・ 大きな声でスコアをコールする

ラインコール以外のコールを行います(ラインコールは基本的に選手がします)。特に、スコアは選手だけでなく、観客にも聞こえるよう、大きな声でコールしてください。

### ・ 公平で責任あるジャッジをする

ラインコールは選手がしますが、SCUの人も、ボールの落下点は最後まで確認します。選手の判定が明らかな間違いであった場合は、直ちにオーバールールをします。選手やベンチコーチや監督の質問や抗議を受けてから判定を変えてはいけません。

※オムニコートやハードコートでは、ポイントが終わった後、その場に行ってボールマークを確認してジャッジし直すことはありません。選手もSCUも、ボールがバウンドしたら、直ちにジャッジをするようにします。(クレーコートのみ、審判台を降りてボールマークの確認をすることができます。)

※ 明らかな間違いと言えない場合は、ジャッジをした選手の判定に任せます。その際、もし、選手やベンチコーチや監督から質問や抗議を受けても、ジャッジをした選手の判定を支持します。

※ もし、選手やベンチコーチや監督が質問をしてきた場合、堂々とした態度で丁寧に答えてください。もし、選手やベンチコーチや監督が、判定を変えようと抗議をしてきた場合、その行為は反則にあたります。質問ではなく抗議と受け取れる態度があった場合は、すぐに試合を止めて、審判台から降り、ローピングアンパイア(基本的に何面かに一人います。)を呼びましょう。

## ・「レット」のコールを行う

サービスのレットのコールはSCUが行います。また、インプレー中に外からボールが侵入したり、選手の持ち物がコート上に落ちたりした場合は、ただちに「レット」をコールしてポイントのやり直しをしてください。ただし、東海大会までは選手にも「レット」をコールする権利を認めています。

※ 「レット」とコールした時、既にボールを打った後だった場合は、そのボールが「アウト」だったら、やり直しにはならず失点、「イン」だったらやり直しになります。また、「イン」だった場合のボールが明らかにエースだった場合は、そのポイントは有効(レットのコールに関わらず返球できなかったと判断)となります。逆に、どんなにチャンスボールだったとしても、ボールを打つ前だった場合は、「レット」となり、ポイントはやり直しです。

※ ポイント中に隣のコートからボールが入ってきた場合、コートの中に入ってきたらレットなのではなく、プレイングエリア(サイドラインから3.66M、ベースラインから後ろのフェンスまでの範囲)に入ってきたら、「レット」をコールしてください。

## ・試合をスムーズに進行させる

ポイント間の25秒を計ります。毎回のポイント間をストップウォッチで計ることは現実的ではありませんが、ポイント間が長いと思われる場合は、ストップウォッチで計るようにします。もし、ポイント間が25秒を超えていた場合は、該当選手に「25秒で始めてください」と注意をします。

エンドチェンジの90秒は毎回計ります。60秒が経過したら「タイムです」とアナウンスします。

どちらも注意に従わない場合は、すぐにローピングアンパイアを呼びましょう。

## ③ 最後に(選手と握手挨拶)

試合が終わったら、選手同士が握手挨拶をした後、SCUも選手と握手挨拶をします。双方の選手と握手挨拶をして、SCUの仕事は終わりです。

# SCUの仕事、本当にお疲れ様でした！！